

講義要項

— syllabus —



札幌大谷大学

札幌大谷大学短期大学部

目 次

1062700	医学概論 眞岡 知央 前期集中	・・・	1
1062800	障がい児教育 今井 常晶 前期	・・・	3
1063500	建学の精神と大谷学 B 宮本 浩尊 後期集中	・・・	5
1045100	教育実地研究 加藤 裕明 通年集中	・・・	7
1045300	介護等体験 加藤 裕明 通年集中	・・・	9
1038900	介護概論 本間 美幸 後期	・・・	11

授業科目	医学概論						
担当教員	眞岡 知央	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	SO-CE 1501			ワデマド科目	○
授業概要							
<p>近年医学・医療の進歩・発展は著しく、専門分化がより進み、様々な職種の人々が医療に携わるようになってきています。そのため医学・医療の全体像を完全に把握することは困難になってきていますが、多くの医療関係者もつ共通認識や、現代医療における問題点などを理解することを目標に、身近な事例なども踏まえながら皆さんと一緒に考察して行きます。</p>							
到達目標							
<p>医学・医療全般に対するイメージをそれぞれ持つことができる。 実際の医療と向き合ったとき、考え方の基礎となる知識を身につける。 現代医療における問題点について意識することができ、それらを改善して行くためにはどうしたら良いか、考察することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)				学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)			
○	1. 基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力			1. 主体的に目標を貫徹する力(自律性)自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができる。			
	2. 自律性：目標達成のために努力を重ねる力			2. 社会に貢献する姿勢(課題発見・社会貢献性)社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。			
	3. 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力			3. 多様な価値観・個性を受容し、共に努力し合える能力(協調性)自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。			
	4. 知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力			4. 社会で求められる基礎的汎用的スキル(基礎的汎用的スキル)コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。			
				5. 専門的知識・技術の修得と活用力(知識活用)自ら選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。			
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
毎回の授業内で行う小テストの合計点が、全講義終了		100%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
この科目は、医療現場に携わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
授業前には、興味のある分野についてインターネットや書籍で情報を集めるなどしてみてください。授業後は、疑問点を明確にし、箇条書きにするなどして整理し、次回授業後に質問してみてください。					2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
授業は基本的に講義形式で行いますが、フォームやメールからの質問を受け付けます。授業内に前回の授業で実施した小テストのフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	身体におけるホメオスタシス	人体における恒常性を維持する仕組みを学びます。
第2週	循環・呼吸器系の形態と機能	人体にとって大切な、心血管系、呼吸器系の仕組みと働きについて学びます。
第3週	消化器系の形態と機能、栄養と代謝	食物からいかにして栄養を吸収してエネルギーに替えるか、また、消化器系に関する病気などについて学びます。
第4週	生体の防衛機構	ウイルスや細菌から身体を守る仕組みについて学びます。
第5週	生活習慣病	現代社会で問題となっている生活習慣病の予防と治療について学びます。
第6週	タバコの害	喫煙の害について学びます。
第7週	アルコールの功罪	飲酒が身体に与える影響について学びます。
第8週	ストレス	身体的、精神的ストレスが人体に与える影響について学びます。
第9週	日本の医療制度	国民皆保険制度に代表される日本の医療制度について、世界と比較しながら学びます。
第10週	日本の医療制度	国民皆保険制度に代表される日本の医療制度について、世界と比較しながら学びます。
第11週	全人的医療とチーム医療	医療は個人で完結するものではなく、多くの人とのつながりを必要とします。チーム医療の実際について学びます。
第12週	少子高齢化社会が抱える問題	現在大きな問題となっている少子高齢化について学びます。
第13週	地域医療、救急医療、医療安全など	地域医療、救急医療、医療安全について学びます。
第14週	ターミナル医療	人間の終末期に関するお話をします。
第15週	全体のまとめ、フィードバック等	全体のまとめなどを行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	障がい児教育							
担当教員	今井 常晶	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2	
		履修人数		必須選択	選択			
		授業形態				授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1401			ワデマンド科目		
授業概要								
障害に対する基本的知識や正しい理解を習得し、障害児を取り巻く支援体制について理解する。								
到達目標								
障害に対する基本的知識やその支援体制について説明できる。								
学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)				学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)				
○	1. 基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力			1. 主体的に目標を貫徹する力(自律性)自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。				
	2. 自律性：目標達成のために努力を重ねる力			2. 社会に貢献する姿勢(課題発見・社会貢献性)社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。				
	3. 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力			3. 多様な価値観・個性を受容し、共に努力し合える能力(協調性)自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。				
	4. 知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力			4. 社会で求められる基礎的汎用的スキル(基礎的汎用的スキル)コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。				
				5. 専門的知識・技術の修得と活用力(知識活用)自ら選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。				
成績評価方法・基準								
	内容	割合(%)		内容	割合(%)			
	授業内試験	80%						
	平常点	20%						
教科書・ソフト等								
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
	『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等								
なし。授業内で指示します。								
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり		
この科目は発達障害児への発達支援の実務経験のある教員が実践的教育を行っている。								
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間								
	予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
	前回までの授業内容や資料をしっかりと復習し、質問されても答えられるようにしておくこと。						2時間から3時間程度/週	
受講時の注意事項								
新聞などに掲載される障害に関する記事は読んでおくことが望ましい。								
アクティブ・ラーニング情報								
備考								

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	自己紹介・オリエンテーション	講師の障害児との出会いや関わりの歴史について話し、授業の予定について講義する。
第2週	特別支援教育の現状	現在の特別支援教育の制度について講義する。
第3週	視覚障害の理解	視覚障害の特徴に関連して、目の構造と機能、視覚障害の定義、視覚障害の心理と対応方法について講義する。
第4週	聴覚障害の理解	聴覚障害の特徴に関連して、耳の構造と機能、聴覚障害の定義、聴覚障害の心理と対応方法について講義する。
第5週	知的障害の理解	知的障害の特徴に関連して、知能の段階、知的障害の定義、知的障害の心理と対応方法について講義する。
第6週	言語障害の理解	言語障害の特徴に関連して、言語障害の定義、言語障害の心理と対応方法について講義する。
第7週	肢体不自由の理解	肢体不自由の特徴に関連して、正常な運動機能、肢体不自由の定義、肢体不自由の心理と対応方法について講義する。
第8週	重症心身障害の理解	重症心身障害に関連して、その定義や発達段階、対応方法について講義する。
第9週	自閉症スペクトラム障害 (ASD) の理解	自閉症スペクトラム障害の特徴に関連して、正常な情緒発達、自閉症スペクトラム障害の定義、その心理と対応方法について講義する。
第10週	注意欠如多動性障害 (ADHD) の理解	注意欠如多動性障害の特徴に関連して、様々な注意機能、注意欠如多動性障害の定義、その心理と対応方法について講義する。
第11週	限局性学習障害 (SLD) の理解	限局性学習障害の特徴に関連して、その定義や心理特性、対応方法について講義する。
第12週	病気療養の理解	病弱児の特徴に関連して、様々な疾患や定義、その心理と対応方法について講義する。
第13週	障害の発見ー乳幼児健診の実際ー	乳幼児健診の実際について、DVDを視聴して理解を深める。
第14週	発達障害とは	発達障害の実際について、DVDを視聴して理解を深める。
第15週	授業内試験	理解の度合いをみる授業内試験を実施する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	建学の精神と大谷学 B						
担当教員	宮本 浩尊	配当年次	1 年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	SO-CE 1002			ワデマド科目	○

授業概要

この授業では、「建学の精神と大谷学A」で学んだ内容を踏まえて、仏教思想をより詳しく理解することを目標とします。仏教は、今から2500年前のインドで誕生した宗教です。仏教は、アジア各地の文化の形成に多大な影響を与えました。日本もまた例外ではありません。仏教を学ぶ意義は、私たちが生まれ育った日本という国の精神史・思想史を理解するための基礎を習得することにあります。そしてまた、札幌大谷大学は、この仏教思想を建学の精神に据える大学です。仏教思想を学ぶことを通して、本学で学ぶ意義を考えたいと思います。

到達目標

仏教の基本的な思考法を知り、生活の中で活用することができる。
 古典に触れることで、人類の叡智を知ることができる。
 札幌大谷大学で学ぶ意義について考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

○	1. 基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1. 主体的に目標を貫徹する力(自律性)自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2. 自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2. 社会に貢献する姿勢(課題発見・社会貢献性)社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3. 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3. 多様な価値観・個性を受容し、共に努力し合える能力(協調性)自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4. 知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4. 社会で求められる基礎的汎用的スキル(基礎的汎用的スキル)コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5. 専門的知識・技術の修得と活用力(知識活用)自ら選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点(出席・課題の提出等)	50%		
授業内試験	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく、「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようにしてほしい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容、目的、計画、評価方法の確認等を行う。
第2週	インドの文化と思想	仏教が誕生した国インドの文化と思想について講義する。
第3週	釈尊の生涯	釈尊の生涯について講義する。
第4週	釈尊の思想	釈尊の思想について講義する。
第5週	釈尊の思想	釈尊の思想について講義する。
第6週	釈尊の思想	釈尊の思想について講義する。
第7週	釈尊の弟子たちの時代	釈尊の弟子たちの時代に仏教がどのように展開したか講義する。
第8週	大乘仏教の思想	大乘仏教の思想について講義する。
第9週	大乘仏教の思想	大乘仏教の思想について講義する。
第10週	中国仏教の成立	仏教が中国にどのように伝わり、定着していったかを講義する。
第11週	飛鳥時代から奈良時代の日本と仏教	仏教が日本にどのように伝わり、定着していったかを講義する。
第12週	平安時代の日本と仏教	仏教が日本でどのように展開していったかを講義する。
第13週	親鸞の思想	親鸞の思想を時代背景を踏まえながら講義する。
第14週	親鸞の思想	親鸞の思想を時代背景を踏まえながら講義する。
第15週	まとめと授業内試験	講義のまとめを行い、授業内試験を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育実地研究						
担当教員	加藤 裕明 / 平向 功一 / 萬 司	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	TEP 4024			ワデマド科目	
授業概要							
<p>教育実地研究（教育実習）はこれまで履修してきた教職課程の集大成であり、学校現場で学ぶ貴重な機会でもある。これまでの学修成果を活用し、教科指導や学級指導などについて基礎的な指導技術を身に付ける。真摯な態度で実習にのぞむことが求められ、実習期間は15日間（3週間相当）で120時間を標準とする。</p>							
到達目標							
<p>学校運営、教科や学級の運営、教員の諸業務を理解する。 教科指導や学級指導を実践し、改善を図ることができる。 教科教育の基礎的な指導方法を身につける。</p>							
教職ディプロマ・ポリシー							
<input type="radio"/>	1. 基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。						
<input type="radio"/>	2. 自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。						
<input type="radio"/>	3. 課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。						
<input type="radio"/>	4. 知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合(%)		内容	割合(%)		
	教育実習の評価表の内容	35%					
	実習日誌の記述内容	35%					
	研究授業の学習指導案（またはこれに準ずる学習指導	30%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』						
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 作成協力者							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
実習前の確認を十分行い、担当教科や学級・学年の指導計画を把握して準備してください。実習中に授業内容が指示された場合は、学習指導案を必ず用意してください。						実習前に事前確認及び準備をする時間を確保してください。	
受講時の注意事項							
「教育実習事前事後指導」の事前指導を欠席した場合は教育実地研究は実施できません。同様に事後指導も受講を必須とします。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	実習期間は15日間(3週間相当)で120時間を標準とし、実習内容は次が考えられる。	(1) 学校経営の方針、運営計画、校務分掌などの理解 (2) 指導担当教員監督下での教科指導 (3) 研究授業での実践
第2週		
第3週		
第4週		
第5週		
第6週		
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	介護等体験						
担当教員	加藤 裕明 / 二通 諭	配当年次	3年生	開講期	通年集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	TEP 3026			ワデマド科目	
授業概要							
<p>教職履修者には福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間の体験が求められる。高齢者や障害のある人々との出会いを通じて、個人の尊厳と社会連帯の理念についての認識を培い、実践主体としての態度を養う。またこのような態度の育成は、教職をめざす者にとって、子ども一人ひとりの多様な人間性を認めることにもつながる。受講後、福祉施設と特別支援学校での実地体験が行われる。</p>							
到達目標							
<p>1. 介護等体験の基礎的な知識や心構えを修得する。 2. 個人の尊厳と社会連帯の理念についての認識を培い、実践に活かす。</p>							
教職ディプロマ・ポリシー							
	1. 基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。						
	2. 自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。						
	3. 課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。						
	4. 知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合(%)	内容	割合(%)			
	実習施設・実習校の評価、講義中のレポート、事後レ	実習施設・実					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『『フィリア』』	全国特別支援学校校長会	ジアース新教育社		9784863712560		
	『『よくわかる社会福祉施設』』	全国社会福祉協議会	全国社会福祉協議会		9784793511578		
参考書等							
授業内で適宜、資料を配付する。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
公立小学校20年、同中学校15年にわたり特別支援学級教員。そのうち地域連携型特別支援教育コーディネーター(歴7年)。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
実習先に連絡を入れる必要が生じた際には、早めに確実に行うこと。						1時間から2時間程度/週	
受講時の注意事項							
講義全8回のうち、最低7回の出席が実地体験へ進む条件となる。レポート未提出者は、単位を認定しない。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	介護等体験とはなにか	教職課程における介護等体験の意義
第2週	実習に関わる諸注意と実習日誌の書き方	諸注意、実習の出勤・退勤、実習中の態度・服装・緊急時の対応・実習後の対応など心構え実習日誌の書き方、概要・一日の流れ・感想
第3週	社会福祉施設における体験学習の講義1	高齢者・障害者福祉施設の現状と課題（福祉施設の種類及びそれぞれの役割）
第4週	社会福祉施設における体験学習の講義2	福祉現場の現状と実習生に求められるもの（福祉施設関係者あるいは研究者を招き、施設の実状等を講義）
第5週	社会福祉施設における体験学習の講義3	実習へ向けての心構え（実習時に特に気をつけるべき点:車いす、食事介助などを講義）
第6週	特別支援学校における体験学習の講義4	特別支援教育の現状と課題（特別支援学校の役割、発達障害など）
第7週	特別支援学校における体験学習の講義5	特別支援教育の現状と実習生に求められるもの（特別支援学校関係者あるいは研究者を招き、特別支援学校の実状等を講義）
第8週	まとめ	高齢者と障がいをもつ子どもとの関わりから学んだこと、介護等体験を通して学んだことを教職にどう活かすか ディスカッションおよび事後レポート作成
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	介護概論						
担当教員	本間 美幸	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	SO-CE 3601			ワデマド科目	

授業概要

少子高齢社会といわれる現代では、介護を必要とする人の増加を背景に「介護」に関連する課題が数多く問われています。「介護」とはそもそもどういうことを言うのでしょうか。介護および介護福祉の概念・理念から、授業をスタートさせます。それらを踏まえて、介護福祉サービスを提供するための基本的な考え方と技法まで学び、介護を必要とする方のニーズに沿った援助について考えていきます。

到達目標

介護・介護福祉についての基本的知識を身につける。
 介護を取り巻く状況について、社会情勢と関連付けて考えることができる。
 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立支援の重要性を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

1. 基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	○	1. 主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることが出来ます。
2. 自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2. 社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することが出来ます。
3. 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3. 多様な価値観・個性を受容し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することが出来ます。
4. 知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4. 社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することが出来ます。
		5. 専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用）自ら選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することが出来ます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験	50%		
平常点	30%		
リアクションペーパー	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、社会福祉の現場に携わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内で配付した資料を活用して講義内容をまとめ、予習・復習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

特に予備知識は必要としませんが、日頃から社会情勢に興味関心を持つことを期待します。また、提示された問いについて自身で考え、発言や質問など積極的な受講姿勢を求めます。
 リアクションペーパーの内容を翌週の授業でフィードバックし、学びを深めていきます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	授業ガイダンス～介護とは何か	介護の概念を言葉の意味から考え、定義から介護福祉の理論を学びます。
第2週	介護を必要とする人の理解	介護を必要とする人たちについて、高齢者とそのご家族を中心に学びます。
第3週	介護が必要な人と家族のための制度	介護保険制度の概略を学び、関連する諸制度の概観を理解します。
第4週	介護が展開される場	介護サービスを提供する多様な現場、施設・機関について学び、高齢者の暮らす場所について考えます。
第5週	認知症高齢者ケア 認知症の理解	認知症の原因疾患の学びを通して認知症とはどういうものか整理し、認知症を巡る研究や支援について概観します。
第6週	認知症高齢者ケア 適切な関わり方	認知症の方への適切な関わり方を学ぶとともに、認知症予防の視点でも考えます。
第7週	介護援助の基本 コミュニケーション	介護する際の基本となるコミュニケーションについて、その技法を知り、介護におけるコミュニケーションの意義を考えます。
第8週	介護援助の基本 社会的な生活の支援	介護が必要になっても主体的にその方らしく生きるために、人間関係や社会性が大切という視点から、レクリエーション援助のことを考えます。
第9週	介護援助の基本 日常生活の支援	人間の生活の基盤となる「移動」の支援について考え、サルコペニア・フレイルなどの比較的新しい概念を理解します。
第10週	介護援助の基本 食べるを支援	食生活の支援について、食事の意義から学び、食事介助における留意点を学習します。
第11週	介護介護援助の基本 排泄の支援	排泄の意義と排泄介護における介護の基本姿勢を学びます。
第12週	介護福祉における倫理	介護を提供する側の倫理観について学び、専門職としての社会的責任を考えます。
第13週	社会の変容と介護福祉	変わりゆく社会や生活環境、人の気持ちなどに対応して、求められる介護福祉はどうあるべきかを考えます。
第14週	尊厳を支える介護	終末期の介護まで視野に入れて、「人の尊厳」とは何かを改めて考えます。
第15週	授業内試験とまとめ（介護福祉の新たな課題）	介護概論の学びの振り返りと、理解度確認を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		